富士宮高校会議所・5月例会
「近江商人と富士宮の繁栄」をテーマに

富士宮市内の5高校の生徒が地位活性化・商店街振興・まちづくりなど地方創生に高校生の視点と行動力でアイデアを出し事業に取り組んでいる「富士宮高校会議所」は17日、事務局の西町レトロ館で第3回定例会を開き、「静岡県近江商人ゆかりの会」の代表らとの座談会で「近江商人と富士宮の繁栄」をテーマに語り合い、今後の事業などについて協議を進めた。

近江八幡商業高校生もグーグルハングアウトで参加して進められた同日の会合では、最初に「近江商人と富士宮の繁栄について」と題した座談会が、講師に「近江商人ゆかりの会」の平居匡儀さん（同会代表、静岡滋賀県人会会長。三島市）、富士宮在住の同会会員、中村一雄さん（㈲フジヤマ・コンサルティング代表取締役）、吉澤利一さん（㈱吉澤Rihei大番頭）の3人を招いて開かれた。

近江商人と富士宮のつながりは歴史的に深く、富士宮の老舗の中には近江出身者が数多く、富士宮の商業を支えてきた伝統を持つ店舗が少なくない。

「近江商人ゆかりの会」は、近江と静岡の交流と発展を目指して活動を始めている。富士宮でも市と近江八幡市の「夫婦都市」提携に基づく交流が各方面で進められているなか、今年2月に発足した「近江商人ゆかりの会」に、吉澤利一さん、中村一雄さん、犬上勝夫さん（「おふくろ亭」代表）らが加わり、富士宮独自の活動でガールスカウトの交流に協力するなどしてもきた。

座談会では、平居代表らが「近江商人ゆかりの会」の滋賀（琵琶湖）と静岡（富士山）のい結びつきや人々の交流が生んだ「近江商人と富士宮の繁栄」の歴史を解説、「近江商人ゆかりの会」が目指す交流推進・産業振興活動への思いを語り、高校会議所の近江八幡商業高校との交流に期待を寄せた。

座談会に続く定例会では、土曜日に開催している「レトロ楽市」、商工フェア出展の収益状況、観光協会「みやげにして宮」応募結果、関東商工会会議所連合会ベストアクション賞受賞などの報告や今後の活動などの説明が行なわれ、事業推進を確認した。

「静岡県近江商人ゆかりの会」の代表らと座談会

JA富士宮おもいやり会館「盆フェア」

JA富士宮おもいやり会館は17日と18日に同館で「盆フェア」を催した。

お盆のシーズンを前に、食品・潜在などの返礼品をはじめ盆用品・仏壇・仏具を数多く揃えて展示販売受付（8月31日まで販売セール）を特設会場で催した。同フェアは、販売セールの開始セレモニーを兼ねたもので、昭和の当時のスターのポスターやレコードなども展示した「おもいやり昭和レトロ通り」での駄菓子・駅弁販売や輪投げなど多彩な催しが行われ、先着100家族限定の写真撮影サービスなど多彩な催しが来場者を楽しませた。

2日間で約300人の家族連れが来場した。

JA富士宮おもいやり会館では、盆用品・返礼品・仏壇・仏具の販売セールを8月31日まで実施している。

販売セール開始セレモニーを兼ねた「盆フェア」で多彩な催し

上稲子で火災の発生

17日午後2時27分、富士宮市上稲子で山林火災が発生し、山林約630㎡を焼失し同3時49分鎮火した。

この火災により下稲子の農業佐野正義さん（77）が死亡した。また一緒にいた妻が煙を吸い救急搬送されたが、軽傷だった。

検証
富士宮市の課題 2017

迷走始めた「世界文化遺産のあるまち」づくり　2-1
閉店店舗1億超高額買い上げ疑惑が深まり
契約急ぐ「事業変更」の異例な手続きの『怪』
求められる背景の事実に「特別調査」の声も

富士宮市が浅間大社大鳥居西側の閉店店舗（用地）の買い上げを行なう問題に関して、市民から「市が1億円もかけて購入予定とか、売買契約をする場合、どちらが最初に意思表示したかが問われる。

売り手側からだとするなら、買い手側優位で交渉が進むのが社会一般のあり方、買い手側（市）はその物件の評価、活用方法によって様々な条件を提示して交渉すべき。

約1億円の税金をつぎこんでどうするつもりなのか」など、用地取得の事業費が、後付けで移転補償費・解体費・周辺整備などを加えて1億円超にもなる買い上げ事業に多くの疑問が提起されていたが、16日に開会した市議会6月定例会では、初日の議案審議で、市当局側がすでに説明（ミニ公園整備への計画変更を全員協議会で）したとして用地取得を進める考えを示したのに対して「議会では議論が続いている」「計画内容や期間の設定に関して議論を進める必要がある」と望月芳将議員が、不明確な計画変更の説明と高額な税金投入への疑問を、公正公平で適正な事業実施を求めて「継続した協議案件」である考えを示し、透明性の高い市制運営を質した。

同問題については、議員の中から「最初は建物ナシの更地での取得で予算計上されていて更地取得であったのに、当局の『なし崩し』的な進め方の印象が強い」「急ぐ理由はなぜか」「相場価格と比べてどうなのか、低くてもいいのではないか」など、全員協議会で計画変更の説明は受けたが納得・承諾したわけではなく、予算執行（条件付で予算成立していることもあり、条件に承諾できなければ予算同意はできない、とした考えも）を前に、さらなる調査の必要を語り疑問を提起する声が聞かれ、今後の議会の調査対応が注目される。

同問題については、「売り手側から最初に意思表示したかが問われる」点に関して、最初の段階で市の対応に疑惑が持たれる背景が明らかになるなどした場合は市の予算措置の経過やプロポーザル方式の進め方などの問題とは別の問題が浮かぶことにもなり「特別調査」の必要が高くなる。

さらには「市の税金の使い方、行政運営の大問題として『閉店店舗1億円超買い上げ』疑惑を市議会が追及できなければ住民監査請求で明らかにしたい」と1億円超の買い上げ強行（予算執行）に『納得できない』とする市民らからの声も寄せられている。

市当局側が「浅間大社西側取得予定地の活用」について急遽計画変更の説明を行なった定例会前の全員協議会の説明で、土地契約を急ぐ背景などに新たな疑惑が浮上する事態となっていたが、問題は当初閉店店舗の用地を取得し、そこにはプロポーザル方式で公募した店舗を事業計画に示すとしていた予算成立時の議会に「約した」（確約）した条件付予算成立の前提が崩れたことにある。

事業用地での変更や公共事業への変更などで事業計画が変えられたのであれば、予算成立時の説明と異なることになり、事業変更に基づく議会の承認も必要になるだけに、『異例の手続き』で契約を急ぐ疑問は深まる。

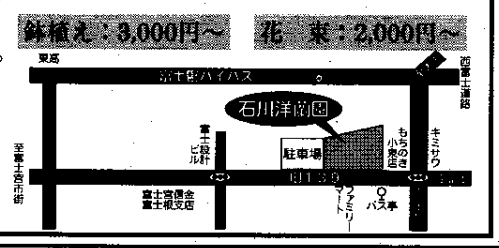
「プロポーザル方式で事業者を選定して計画を示す」としていた案件では、投資効果の面からも1億超を投資する価値のある事業なのかとの疑問は「なぜ1店舗のみ買い上げなのか？」といった『公平・公正』な事業の問題が指摘され、「移転補償費や解体費まで含み（補正予算や一般会計予算などに分散化させた予算計上で合算すると1億円超に膨らんでいる事業費分散の『後付け』で「なし崩し」的に膨らんだ事業費」が「市の事業・税金の使い方で『適正』と言えるのか？」などの疑問が指摘され、市が土地契約を性急に進めようとしている動きに『1億円超高額買い上げ疑惑』は深まってきていた。

「実勢価格で数千万にも満たないであろう土地が、なぜ1億円超にもなるのか」との疑問は商店街の店舗主などからも聞かれる。果たして買い上げ予定土地の正しい不動産鑑定評価額はいつ明らかにされるのか、市が買い上げ予定土地に続く民間に売却される土地の価格はいくらになるのか、周辺土地評価との比較は、などの問題はいくつも挙げられる。

プロポーザル方式公募とせずに、ミニ公園（公共事業）に計画変更した『怪』の検証すべき構図は様々にあり、1億円超もの買い上げ（支払い）を急ぐ、計画変更など事業計画を変えるなど「異例な手続き」とも思われる『戦略的』計画変更の画策にどのような背景があったのかは注目される。

水曜日は大野水産魚センター特売日です
富士宮市淀平町1181
電話26-2474
広告は岳陽新聞へ

お祝い・記念日に胡蝶蘭を贈りませんか

鉢植え：3,000円～　花束：2,000円～
※花束は予約制です。予めご連絡下さい。
※切花は1本からお売りいたします。
石川洋蘭園
富士宮市小泉203
TEL：0544-22-8711
FAX：0544-23-1187


指出泌尿器科
富士宮市朝日町九番五号
電話(24)3511(代)

家庭的愛情のなかで人間形成の基礎を育てる
愛育託児所
富士宮市淀川町三番九号
☎(0544)26-5834